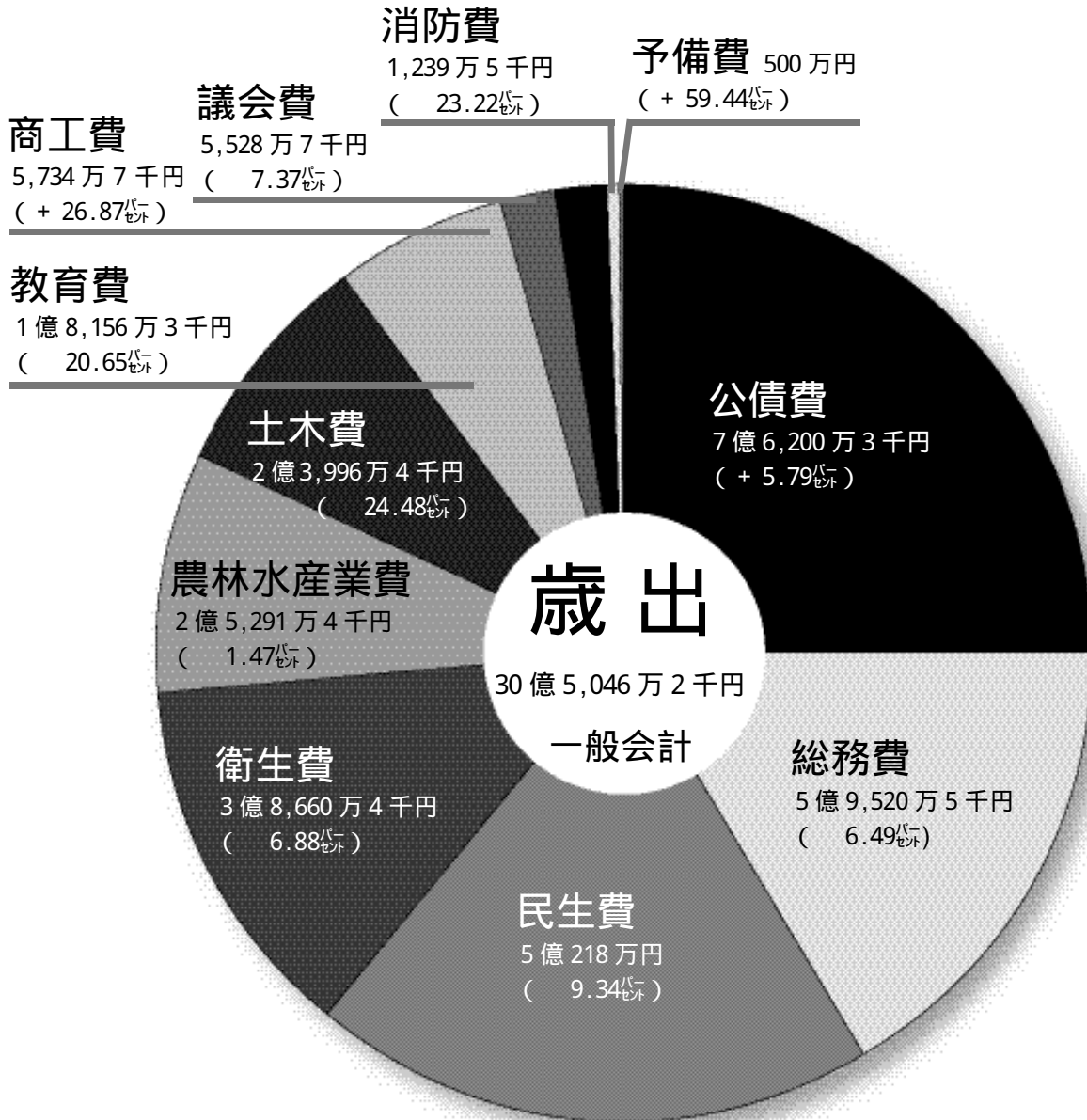


# 一般会計歳出

(カッコ内は前年度実績見込との比較)



今年度の歳出の内訳は、町債の返済金である公債費が7億6200万3千円(一般会計全体の24・98%)と、最も割合が大きく、町財政を圧迫している大きな原因になっています。以下、各事業に使われるお金としては、防災行政無線整備や全般的な管理事務経費などの総務費が5億9520万5千円、福祉や健康づくりなどの民生費が5億218万円、予防接種や環境衛生関係に使う衛生費が3億866万4千円、森林整備などに使う農林水産業費は2億529万4千円、町道の改良・整備、除雪などの土木費が2億396万4千円、学校教育、社会教育などに使う教育費が1億815万6千3百円とされています。

また、中小企業への支援などの商工費が5734万7千円、議会運営などの議会費が5528万7千円、消防団、防災センター管理などに使う消防費に1239万5千円を計上しています。

赤字相当分を諸収入に計上、収支のバランスをとる

今年度から歳出額が歳入額を上回るようになりましたので、まちの一般会計は赤字となり、この状況は当面続く見通しです。

この原因の大きなものとしては、まちの収入の大部分を占める地方交付税が毎年削減されていることが挙げられます。今年度も、昨年度実績に比べて6割程度の減額を見込んでいます。

また、各種事業を実施した借金の返済のピークを迎えていることもあり、ますます厳しい状況になっています。

さらに、昨年度まではまちの貯金である基金を取り崩すことで収支のバランスをとっていました。現在基金残高は少なく、(平成17年度末で約1億5千万円)、それでも足りない状態になっています。

基金を取り崩すことができない代わりに、今年度の一般会計予算では、歳入が歳出に不足する額(赤字額)の2億5199万円を諸収入のうち

ます。いずれにしても少しでも早く赤字が解消できるように努力していかねばなりません。

赤字解消へ向けて、様々な面で歳出を削減

赤字を解消するため、今年度予算では、今までよりもさ

らに歳出の減額を図りました。人件費については、職員は平均10割、町長は約30割の減額、助役については引き続き総額で約12割の削減、教育長

も同様に9・7割の削減を行います。

また、議員7割、農業委員と教育委員10割の減額をすることとしました。通勤手当の見直しなども含め、昨年度と比べて7331万9千円の減額となります。

また、庁舎をはじめ、各公施設の維持管理費を見直して595万円を減額、庁舎清掃や文書配布を職員が行うことにして合計144万円を減額しました

さらに、町社会福祉協議会補助金298万円をはじめ、各種団体等への補助金額の見直しを図りました。このほか指定管理者制度の導入によるリバーサイドひの管理委託料560万円、納税組合への報奨金99万円などの削減など、すべての事務事業において徹底した経費の削減を行いました。

## 平成18年度一般会計歳出予算性質別集計表

(単位：千円、減額)

科目	本年度	前年度実績 見込	比較増減	対前年度比 (%)
人件費	630,694	704,013	73,319	89.59
物件費	243,497	296,611	53,114	82.09
維持補修費	16,209	33,864	17,655	47.86
扶助費	147,692	140,281	7,411	105.28
補助費	579,462	661,485	82,023	87.60
普通建設事業費	221,037	242,284	21,247	91.23
災害復旧事業費	0	2,685	2,685	0
公債費	770,333	732,720	37,613	105.13
積立金	585	643	58	90.98
貸付金	54,825	43,218	11,607	126.86
繰出金	381,128	395,063	13,935	96.47
予備費	5,000	3,136	1,864	159.44
計	3,050,462	3,256,003	205,541	93.69